

三三六〇番

をはりだ 小治田の 年あ魚ゆ道ぢの水みづを 間まなくそ 人ひとは汲くむと  
いふ 時ときじくそ 人ひとは飲のむといふ 汲くむ人ひとの 間ま  
なきがごとく 飲のむ人ひとの 時ときじきがごと 我わ妹ぎ子こ  
に 我あが恋こふらくは 止やむ時ときもなし

反はん歌か

三三六一番

おも 思おもひ遣やる すべのたづきも 今いまはなし 君きみに逢あは  
ずて 年としの経へぬれば

或ある本ほんの反はん歌かに曰いはく

三三六二番

みづかき 瑞垣みづかきの 久ひさしき時ときゆ 恋こひすれば 我あが帯おび緩ゆるふ  
あさよひ 朝あさ夕よひごとに